

住民意見交換会における主な意見

1 くらし復興

生活環境の整備	住宅解体の確実・迅速な遂行	住宅解体のスピードアップを図ってほしい。
		不在の家のブロック塀や石垣が壊れてきているので、対応をお願いしたい。
	応急仮設住宅、災害公営住宅の整備	仮設住宅の建設場所の考え方、仮設住宅未入居者の状況、今後の仮設住宅の建設・入居予定、入居2年経過後の扱い、元の住居地域との関係について、検討してほしい。
		仮設住宅の入居期間である2年間で次の住宅の目処が立たない人も多だろう。災害公営住宅についても集落単位で整備を進めてほしい。
		住宅敷地内に小屋やユニットハウスを設置して住んでいる費用を支援してほしい。
	住宅再建への支援	住宅再建までのプロセスを早く示してほしい。「安心して暮らしていけるのか」「断層が通っているかもしれない土地に家を建てても大丈夫なのか」が最大の関心事。
		復旧期に安心して住宅を再建するために、断層・地盤調査を早急に進めてほしい。地盤調査の結果、元々の場所に家を建てられないということもあり得るのかを知りたい。
		宅地の復旧や、住宅と住宅の間の石垣・擁壁の補修費用についても支援をお願いしたい。
		住宅の耐震診断・耐震工事への補助制度を設けてほしい。
	自然災害への対応強化	集落内の有線放送の改修、防災行政無線の修理・強化を町で実施してもらいたい。
		主要幹線道路近くに避難所として利用できる公園が必要。
	道路環境の改善・充実	整備されていない道や狭い道が多く、自転車が走りにくかったり、ベビーカーを押して歩くのが大変だったりしている。
		土のうが積んであって離合しにくい箇所やカーブミラーの向きが変わっている場所があるなど、地震により運転しにくい箇所が増えている。
		被災して街灯が減ったので、夜中は真っ暗。とても危険。
		大型のクレーン車やトラック等が頻繁に通るようになったので怖い。道路上によく災害ゴミが落ちているので危険。
	公共交通機関の充実	バスの路線・本数が少なく、不便。元々走っていた路線の早期復旧や、仮設団地向けの路線整備を早く進めてほしい。通勤・通学時間だけでもバスの便・路線を増やしてもらえるとありがたい。
		交通網を整備してほしい。空港とまちのつながりが現在は少ないので、熊本市電を空港まで延ばし、町中心部を通るような計画を検討してほしい。

保健・医療・福祉の充実	子育て世代への支援	若い人は益城から出て行っている人も多い。若い人が益城に戻りたい、益城で子どもを育てたい、その子どもが将来益城に戻ってくる、というまちをぜひ作っていただきたい。
		若いママたちが町で集まる場・機会が少ない。図書館のような集いの場を整備してほしい。
		現在の子どもたちが復興に大きく関わっていくと思う。中学3年生までの医療費無料の施策を活かしていただきたい。
		益城町出身ではなかったが、中学3年生までの医療費無料など、子育て支援が充実していると聞いて移住してきた。しかし、子どもを保育園に預けられない。医療費無料制度は今後も続けてほしいし、若い世代の定住を促すのであれば、あわせて保育園を作るといった総合的な対応が必要。
	子どもへの支援（遊び場の整備、心のケア）	元々遊び場が少なかったうえに、地震によって児童館が被災した。児童館が早く復活してくれると嬉しい。
		小学生が自転車に乗って遊びに行こうとしても行く場所が無い。大きい施設でなくとも、町内に遊べる施設・商店がほしい。
		近所のグラウンドは自転車乗入れ禁止なので、自転車を練習できるような場所がない。比較的大きな公園がほしい。また、日差しを避けられるような公園が良い。
		これからは将来のこと、子どものことを考えるべき。夜、寝られない子どももいると聞いている。図書館から本を借りてきてお母さんに読んでもらう、という安らぎの時間を子どもたちに提供してあげてほしい。
	保健・医療・福祉の充実（特に高齢者等の見守り）	仮設住宅に加えて、みなし仮設や在宅避難している人たちについても見守りが必要。何とか建っている自宅で必死に生活している人たちがたくさんいる。自宅に残っている人たちこそ不安を抱えている。
		町立病院を再度つくってほしい。
		独居の高齢者にタクシーチケットを配布してほしい。
		ただ単に復旧・復興するのではなく、住民の生活様式を改善することで、「益城の高齢者は元気だね」と言われることを目指してほしい。
生活再建への支援	一部損壊の人も怖い思いをしたのは一緒。自宅の被害状況に関わらず、全住民に対して義援金の一部を活かせないか。	
	生活再建資金制度の期間の延長はないのか。	
	固定資産税や町民税の減免措置はないのか。	
	町営住宅の家賃返却はないのか。	
教育・文化の向上	教育	益城町に高校や大学をつくってほしい。
		子どもの環境改善を図ってほしい。小中学校の給食センターを早く復旧してほしい。
		「益城に住みたい」と思うような教育をしてほしい。

	文化・スポーツ	図書館を早期に復旧・復興してほしい。
		寺社仏閣や城趾といった文化財の保護・補修について、町から補助してほしい。
		子どもたちの心のケアのために、文化・スポーツ施設の早期復旧が重要。
	公民館	公民館の解体・補修に対して、町からの支援をお願いしたい。
		公民館を自然災害時（地震、台風等）の避難場所として活用できるようにしてほしい。
		行政区をまたいで公民館を共同利用していくことを検討したい。

2 復興まちづくり

新たな都市基盤の整備	土地利用、区画整理等	区画整理の対象エリアを早く示してほしい。
		区画整理にあたっては、各種条例の緩和も考えてほしい。
		グランメッセ木山線周辺の開発を期待したい（農業振興地域の解除も含め）。周辺にモールを作ってもよいのでは。
		第二空港線沿いの農地は調整区域であるので自由には使えないと聞いているが、市街化調整区域から除外し、発展させたらよいのではないか。
		第二空港線沿いに公園を作り、その奥に商店街を作れば人が入ってくるので良いのでは。
	集団移転	最も被害の大きかった地域の集団移転をぜひ実施してほしい。
	道路復旧・拡幅	県道熊本高森線などの拡幅を是非とも進めてほしい。
		道路の補修をお願いしたい（個別の道路、橋と道路の段差、信号・ミラーを含む）。
		離合もできないような狭い道路も多いので、そういうところも含めた再整備をお願いしたい。
	川（橋・堤防）の復旧、他の災害への対応	川、堤防の補修をお願いしたい。
		地盤が沈下したため、川の高さが相対的に上がっている。土地・川をどの高さで復旧するのかを早急に決めてほしい。
		河川沿いの土のうについて、景観の観点から改善を検討してほしい。
		消防小屋の修復をお願いしたい。
	役場庁舎	益城町の復興を考えたとき、庁舎がどの位置にどのような形でできるかというのは非常に重要。庁舎の移転は町民の安全のため必要であり、早めに対応してほしい。

3 産業復興

産業の復興	農業	水田被害の復旧見通しを早期に立ててほしい。水田機能の復旧（用水路、水田の水平復旧）への支援をお願いしたい。今回の地震で被害を受けた畑・田んぼについて、個人で修復するには限界がある。
		農産物の販売拠点を整備してほしい。
		田んぼを手放したいという人も多い。河川を拡幅するとなると田んぼをつぶさなければいけないので、田んぼを手放したい人の意見も聞いてほしい。
		益城町は農業が主要産業なので、各農家の土地に適した野菜について農業試験所の先生と一緒に検討してもらい、農家ごとに違った野菜をすぐれた品質でつくり、全国に販売するようにできないか。
	商工業	住民の生活再建を支えるためには、雇用の問題もある。町内中小事業の多くがかなりの痛手を受けている。中小事業者の事業再開に向けた支援をお願いしたい。結果的に雇用の創出につながる。
		町の商業者がメインになって頑張れるような場所や仕掛けが必要。そういった場所で、「従来の町の商業者」+「町外有名店」+「新しく商売を始めたいと思う人（町内外問わず）」という人たちが頑張ればいい。
		地元の店で若者たちに指導してあげる（＝商売の学校）という仕掛けができればいい。地元の店で学んだ若者が益城町を拠点にさらに商売を展開していく、というケースもあり得るだろう。貸し店舗を準備すれば、起業しやすくなるのではないか。
	企業誘致・産業拠点整備	産業・経済の再生のために産業の拠点を整備するにあたって、都市計画上の制約などがあるのであればその制約を外すということも検討していただきたい。
		産業の拠点の整備にあたっては、都市計画上の制約などがある。復興計画の中で制約を外すということも検討していただきたい。
		産業の拠点をつくるにあたって、仕組みづくり+規制緩和を行政に期待する。土地、人、資金など、商売に取り組みやすい環境を作ることが重要。ただ、求める環境は、業種によっても異なるはず。それぞれにあわせて準備が必要。例えば貸し店舗を整備するなど。
		益城町を税制特区にし、益城町で買い物をしたら消費税 3%とか進出企業は5年間税金をかけないといった誘致制度を実現できないか。働く場所を増やす事が大事。
雇用の確保のため、企業の誘致を検討してほしい。		
道の駅を整備できないか。		

産業の振興	観光・レジャー	<p>将来（10年後・20年後）を見据え、親子が飯田山・船野山・朝来山・城山（益城4山）を日帰りで楽しめるコースや、木山川・秋津川を使った癒しのゾーン等を整備できないか。</p> <p>復興の先に発展があるように、人を集める観光の目玉を作ることも考えた方がいいのでは。日本だけでなく世界から足を運んでもらえる産業施設もありだと思ふ。</p> <p>他県の人にも震災を知ってもらう場を作ることは重要。そこで、益城町の人と、他県の人との交流ができる。また、震災被害の状況とともに、益城町の良いところを見てもらおうようなバスツアーをしてもいい。</p>
	商業施設の充実（生活者の観点）	<p>子育てしやすい町というふれこみで移住したが、店がバラバラに点在している（もしくは町内に無い）ためものすごく不便。結局、市内に買い物に行かなければいけない。</p> <p>ホームセンターや食料品店、ショッピングセンター等を誘致してほしい。大型商業施設は難しい場合でも、ある程度商店がまとまった施設がほしい。地元の商店も入れると良いのでは。</p> <p>買い物できる場所に各銀行のATMを揃えてほしい。</p> <p>飲食店を早く復旧させてほしい。</p> <p>中学生・高校生が集まれる場所がない。若者が入れるようなカフェがあってもいい。</p>
	雇用（就業者の観点）	<p>町の中に働く場所が無く、熊本市に働きに出るしかない。一方で保育所の問題もあり、休職中は入園できないのでどうしたらよいか。</p> <p>働きたくてもどうしたらよいかという悩みがある。一時保育はなかなか預かってもらえないし、ハローワークは遠いので大変。</p>

4 その他

協働のまちづくりの推進	コミュニティ	<p>災害公営住宅について集落単位で整備を進めてほしい。地域コミュニティを維持することは重要。</p>
	防災意識の向上	<p>住民の防災意識の向上を図るということで、4月14日を益城町の防災の日と制定し、その日に大々的な防災訓練を行ってほしい。</p> <p>断層の位置を示す標識を設置することで、地震のことを忘れないことが重要。</p> <p>消防団の活動を再開したいが、若い人は働きに出ていて、人集めに苦労している。</p>
積極的な情報の発信	住民への情報伝達方法	<p>災害FMや広報車を使って各種連絡をしてほしい。</p>
		<p>回覧板での情報発信は、ある程度まとめて、かつ定期的の実施してほしい。</p>
		<p>町外に避難している人たちにも情報が行き届くようにしてほしい。</p>
		<p>マスコミを上手に活用して情報発信してほしい。</p>
		<p>検討段階の情報でいいので、国や県との調整状況を含め、積極的に町民</p>

		に対して情報発信してほしい。
行 財 政 基 盤 の 確 保	計画策定・実行 の進め方	復旧・復興を進めるにあたっての財政面の裏付けを確保してほしい。
		国・県への要請についてはしっかりお願いしたい。
		復興が成功するかどうか、10年後の町を考えるためには、若い人たちの意見が重要。若い人たちの意見を把握する機会をつくってほしい。
		特にビジネスの観点から考えると、「10年」という時間は長すぎる。
		「いかにみんなに希望を持たせるか」がすごく大事。加えて、ステップごとにどうなっていくか（毎年毎年どうなっていくか）を知らせていくこと重要。益城町民が希望を持てるか、ということが重要。
		計画を実行するにあたって検証が必要。進捗状況を町民に示してほしい。計画通りに進んでいない場合は、なぜそのようになったのか、いつごろまでに推進できるかを示していただきたい。
	庁内体制	役場に連絡する場合、どこに連絡したらいいかわからない。